

経営比較分析表

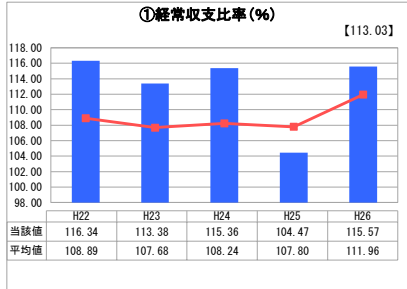
香川県 三豊市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	70.01	98.39	4,320

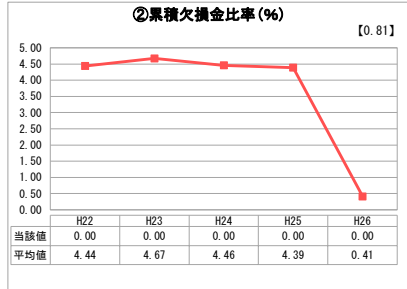
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
68,765	222.71	308.76
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
67,383	123.19	546.98

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成26年度全国平均

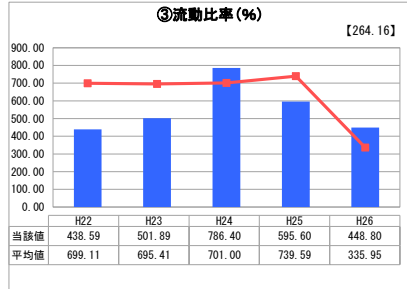
1. 経営の健全性・効率性



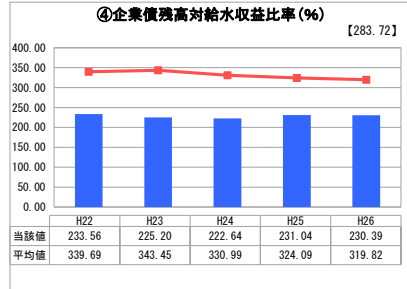
「経常損益」



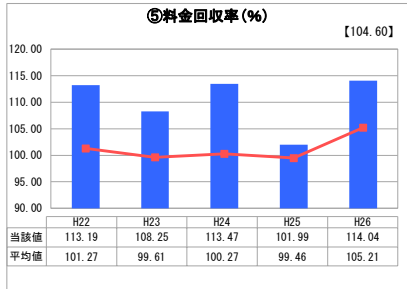
「累積欠損」



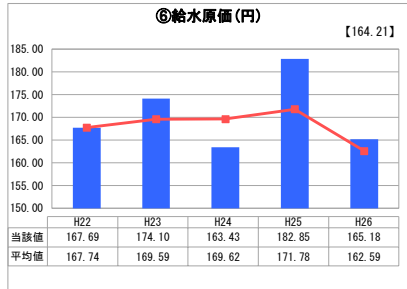
「支払能力」



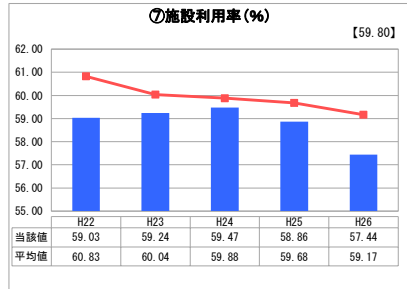
「債務残高」



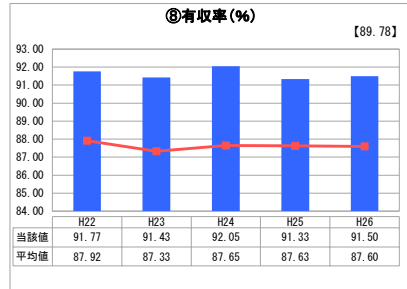
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

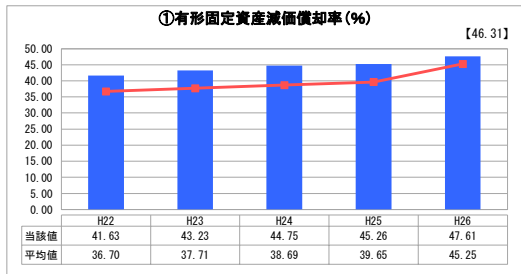


「施設の効率性」

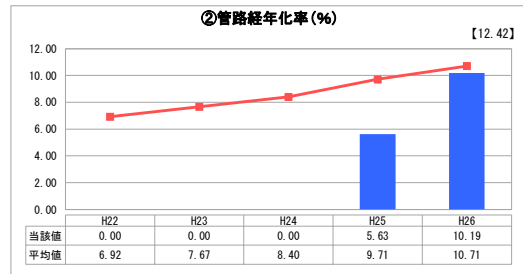


「供給した配水量の効率性」

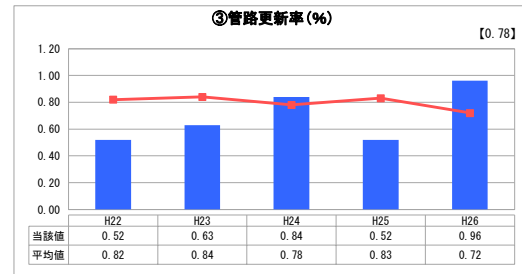
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、115.57%と類似団体や全国平均を上回っており、健全な経営状況である。平成25年度は、排水処理施設の撤去などにより資産減耗費が増大したため、例年に比べ低い数値となっている。⑤料金回収率も100%を上回っているため、必要な収益は確保できているものと考えられる。③流動比率は448.80%と類似団体、全国平均を上回っている。短期的な支払い能力を表す指標であり、200%を超えていれば大きな問題はないとされ、200%を超えていれば大きな問題は無いとされ、200%を超えていれば大きな問題は無いとされ、全国平均を大きく下回っているが、これらにより事業の安全性は、他団体と比較して高いものと考えられる。⑦施設利用率は類似団体、全国平均を下回っているものの、数値としては2%程度の差である。この指標は人口減少や節水技術の向上により需要が減少したこと等が要因で低下するため、全国的に減少傾向となっている。⑧有収率については、類似団体、全国平均を上回っている。この指標は100%に近ければ近いほど、無駄なく水を供給出来ているといえる。今後も100%に近づけるよう、漏水防止対策を進めていくことを目標とする。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体、全国平均を若干上回り47.61%となっている。この指標が高くなれば高くなるほど老朽化が進んでいるということであるため、施設の修繕、更新に係る費用が大きくなる。事業運営に必要な資金を確保しておくよう、この指標の経過を觀察し、計画的な更新を行うことが必要となる。②管路経年化率は類似団体、全国平均を下回っているが、1割を超えている。③管路更新率については、類似団体、全国平均を下回っていたが、平成26年度は更新工事を増やしたため、類似団体、全国平均を上回った。管路経年化率は老朽度合を示すため、この指標が年々上昇するようであれば、更新投資を増やすことが必要となる。

全体総括

現状の経営成績、財政状態に大きな問題はない。老朽化に関しては徐々に進んでいるので、更新が必要となる時期に必要な資金を確保できているか確認が必要となる。健全な事業運営のため、現状把握・分析を行い、将来の必要かつ効率的な投資に向けた計画を立て、実行することが課題の一つといえる。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

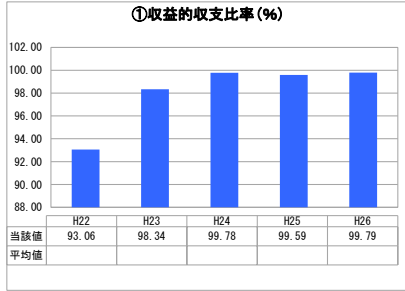
香川県 三豊市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	4.04	100.00	3,186

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
68,765	222.71	308.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,769	1.77	1,564.41

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



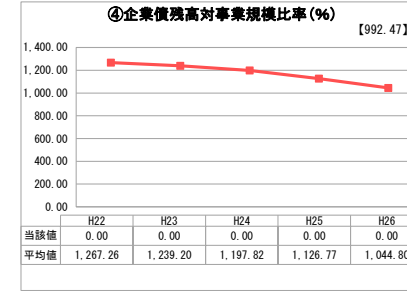
「単年度の収支」



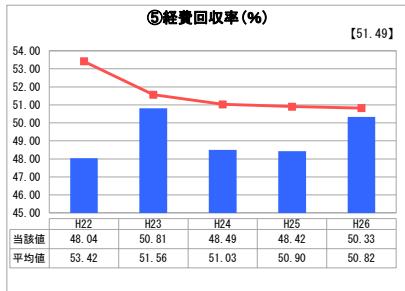
「累積欠損」



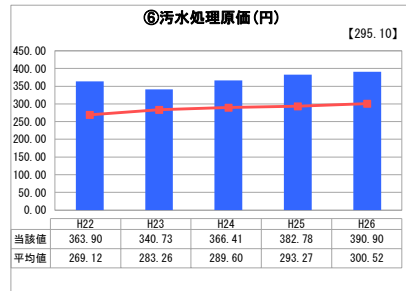
「支払能力」



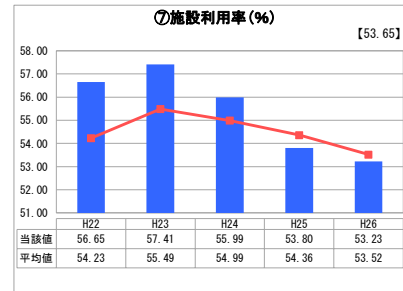
「債務残高」



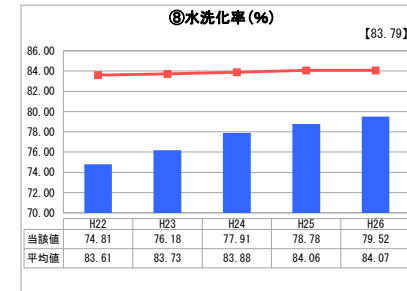
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

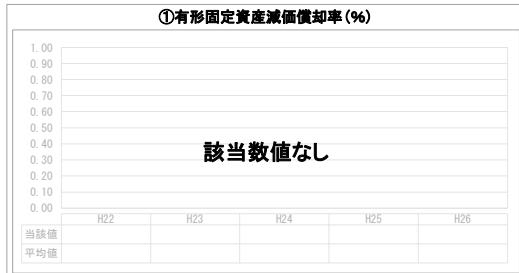


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

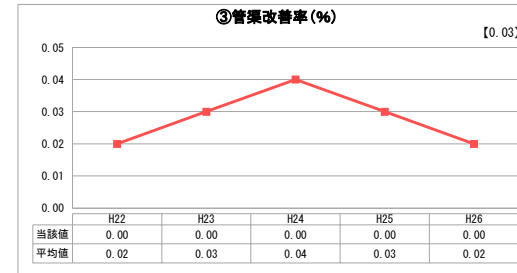
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化的状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、市内5施設を対象としており、収益的収支比率は毎年100%近い数値となっているが、経費回収率は類似団体平均値を若干下回っている状況が続いており、汚水処理原価も平均値を上回っているため、使用料水準を検討しなければならない状況となってきたが、当市では農業集落排水事業と漁業集落排水事業を同一事業として取扱っているため、漁業集落排水事業を含めて考えていく必要がある。また、施設利用率及び水洗化率も類似団体平均率を下回っている。経営の健全性及び効率性を図っていくうえで、施設利用率及び水洗化率の向上が必要である。

2. 老朽化の状況について

施設は平成5年に供用開始を行った潟満地区を筆頭に平成15年に供用開始した大見地区まで5施設が稼働しているが、供用開始後11～22年を経過し、管渠及び施設・機器等の老朽化が進行しているが、平成22年度に行った機能診断調査及び最適整備構想に基づいた、長寿命化更新工事を実施して、更新費用の平準化を図っていく。

全体総括

平成26年度決算及び今後の見通しについて、費用面で経営に影響を与える要因は少ないものと考えられるが、経営の健全性及び効率性のより一層の向上のため、施設利用率の更なる向上を努力し、機械設備の高機能化を図り、維持管理費の削減についても適宜行っていく。また、管渠及び施設の更新は機能強化対策事業等の補助制度を活用して、更新費用の平準化を図れるよう対応していくことにより、本事業の経営を持続可能なものとしていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

香川県 三豊市

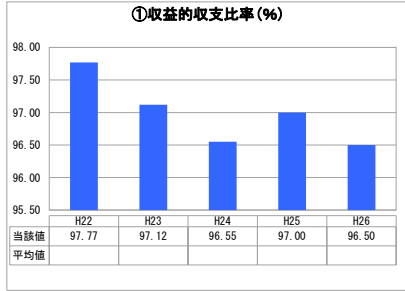
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.11	100.00	3,186

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
68,765	222.71	308.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
76	0.13	584.62

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



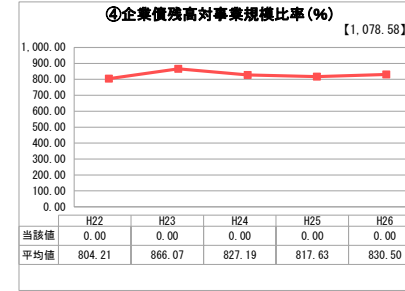
「単年度の収支」



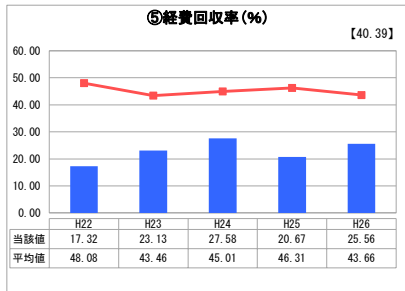
「累積欠損」



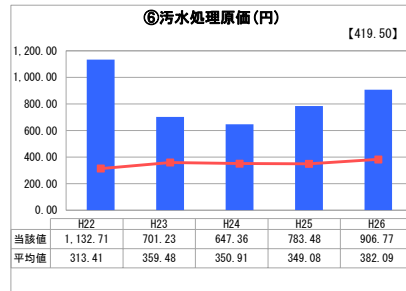
「支払能力」



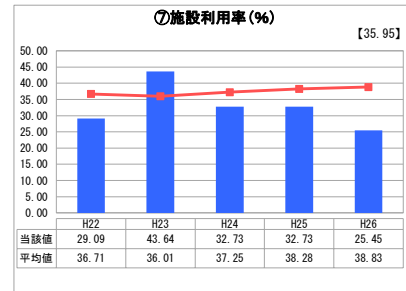
「債務残高」



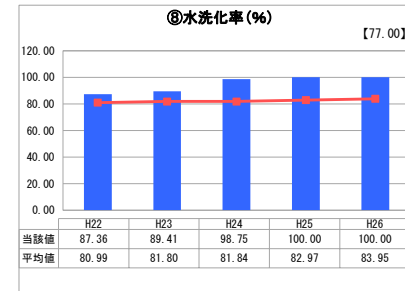
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

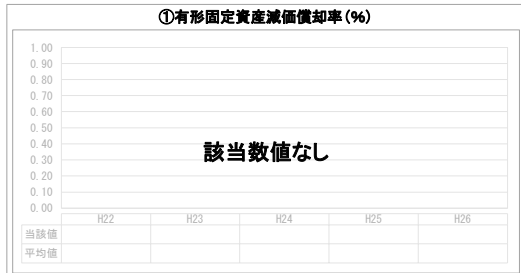


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

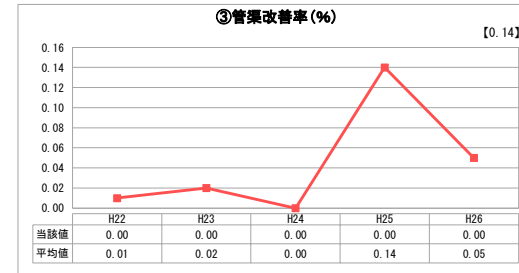
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、市内1施設を対象としており、収益的収支比率は毎年100%近い数値となっているが、経費回収率は類似団体平均値を下回っている状況が続いており、汚水処理原価も平均値を上回っているため、使用料水準を検討しなければならない状況となってきたが、当市では農業集落排水事業と漁業集落排水事業を同一事業として取扱っているため、農業集落排水事業を含めて考えていく必要がある。また、本事業が島嶼部離島という地域性及び地区住民の高齢化、過疎化を考えた場合に、水洗化率100%と併せ、新規利用率の増加が望めないため、最適化構想に基づいた施設の長寿命化、維持管理費の更なる削減に取り組み必要がある。

2. 老朽化の状況について

施設は平成5年に供用開始を行い、供用開始後2年を経過し、管渠及び施設・機器等の老朽化が進行しているが、平成22年度に行った機能診断調査及び最適整備構想に基づいた、長寿命化更新工事を実施して、更新費用の平準化を図っていく。

全体総括

島嶼部離島に本事業を展開しているという、不利な経営状況ではあるが、管渠及び施設を適正に維持管理することにより、機器等の異常を早期発見し故障の未然防止に努め、そのことにより維持管理費の削減に繋がり、引いては管渠及び施設の長寿命化を図ることになる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表

香川県 三豊市

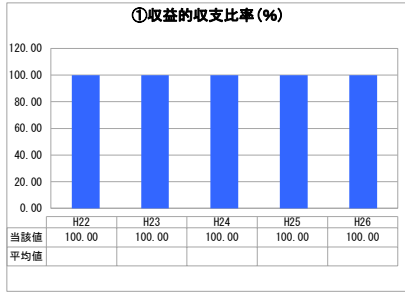
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	10.92	100.00	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
68,765	222.71	308.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,477	30.32	246.60

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



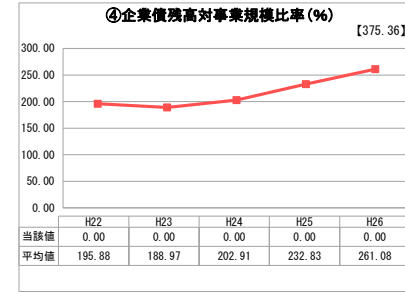
「単年度の収支」



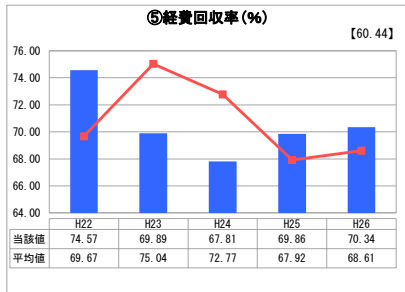
「累積欠損」



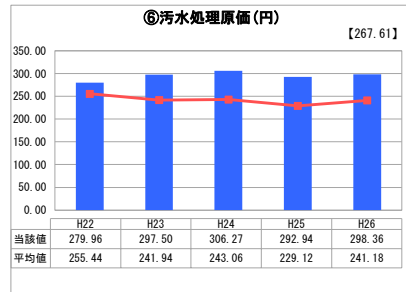
「支払能力」



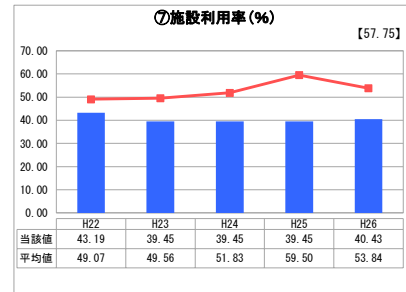
「債務残高」



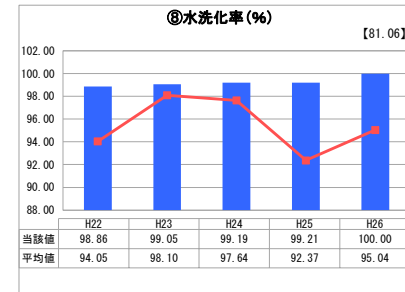
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

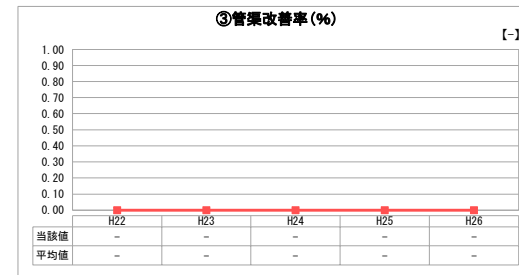
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、H17年度～H19年度で浄化槽設置を終了しており、現在は維持管理のみを行っている。収益的収支比率は100%であり、経費回収率も類似団体平均値を上回っているが、汚水処理原価は類似団体平均値より高くなっている。今後は、新規整備は行わないことから使用料の決定を行わない限り使用料収入の増加は見込めない。

2. 老朽化の状況について

本事業は、個別方式による合併処理浄化槽の為、管渠は無く管渠の老朽化指標はない。また、浄化槽本体については、浄化槽法に定められた保守点検・清掃・法定検査を適正に行っている。

全体総括

三豊市では、生活排水処理は下水道ではなく浄化槽で行うの方針のもと、約2000基ある浄化槽の適正な維持管理をこれからも行うことにより、故障等の早期発見に努め、維持管理費（修繕費）の削減を図り併せて浄化槽の長寿命化を目指していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。